



楽園への招待  
Episode of Elliot 1



## 登場人物紹介

ヴィクトル  
聖歌隊の指導者  
エリオとは  
深い関係が…？

エリオ 12歳  
本名はエリオット  
リヒテンベルク神学校3年生  
聖歌隊のソプラノ担当

ジョシュア 12歳  
聖歌隊所属  
何だかんだでエリオとは  
腐れ縁

ノア 12歳  
大人しくてまじめな  
優等生  
エリオと同室

リヒター 12歳  
ノアと同じ  
図書クラブ所属  
寄宿学校の監督生



前回までのあらすじ

リヒテンベルク神学校は、  
良家の子息が暮らす  
寄宿学校で、優等生のノアは  
憂鬱な気持ちで寄宿生活を  
送っていた。

ある日、部屋替えて、二人部屋に  
移動したノアは、同室生エリオ  
に出会う。

歌の才能にあふれ、天真爛漫な  
彼に気後れるノアだったが、  
次第にエリオへ心を開いていく。

神学校には天使と呼ばれる  
生徒が選ばれ、聖歌隊で  
中心的な存在となる。

エリオが今年の天使候補として  
みんなから期待されていた。

エリオは孤児であり、聖歌隊で  
歌うために神学校の生徒と  
なった、ほかの生徒と異なる  
事情を持っており、  
聖歌隊の指導者ヴィクトルが  
彼の親代わりをしていた。

しかし、なぜかエリオは  
ヴィクトルや聖歌隊で歌う  
ことを避けているようで…



attention

この作品は一部に少年愛の描写があります。

見えるかい  
エリオ









此処はきみを  
苦しめるものも

悲しませる  
ものもない

天使になったら  
ずっとここで  
暮らせる



私のもとで  
天使を目指そう

私はきみに  
全てを捧げよう

きみの歌が  
救いになるのだ

うん





幼い頃に  
交わした約束は  
ぼくの願いでも  
あった





けれど  
その約束が  
ぼくを  
苦しめている

ぼくの言葉は  
ヴィクトルには  
もう届かない

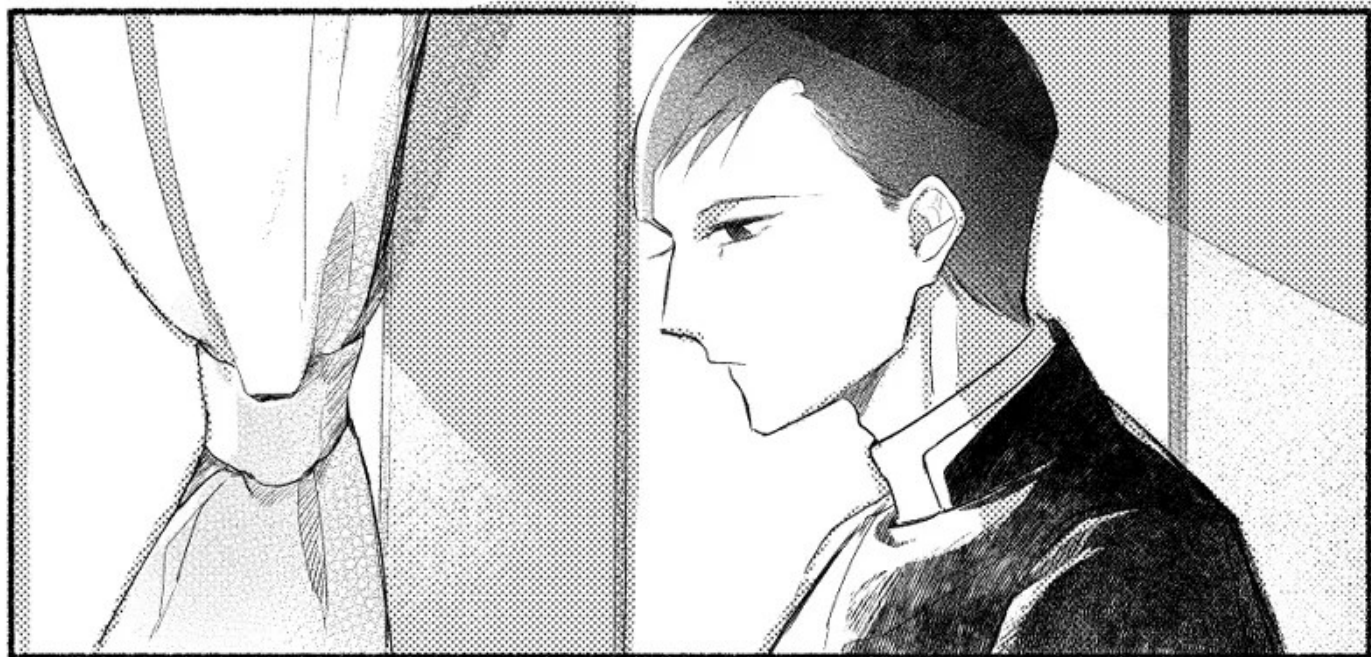
エリオ!













もうヤダーっ!!



あー  
聖歌隊の練習が  
息詰まってて  
鬱憤溜まって  
いるんだらう

えっ

聖歌隊のみんな  
ピリピリしてる

ヴィクトル先生も  
なんか怖いし

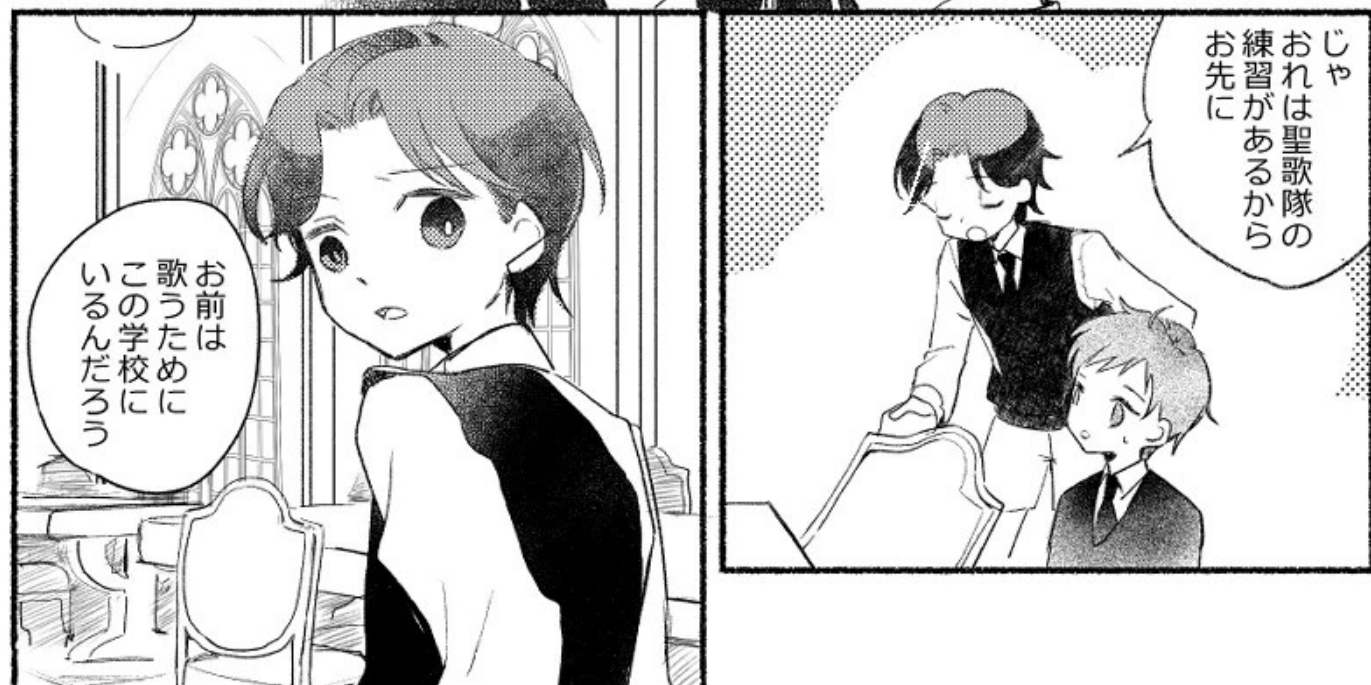


ねえジョシユア  
あの子聖歌隊の  
シモンだよ、ね  
どうしたの  
かな?

ん?  
もぐもぐ









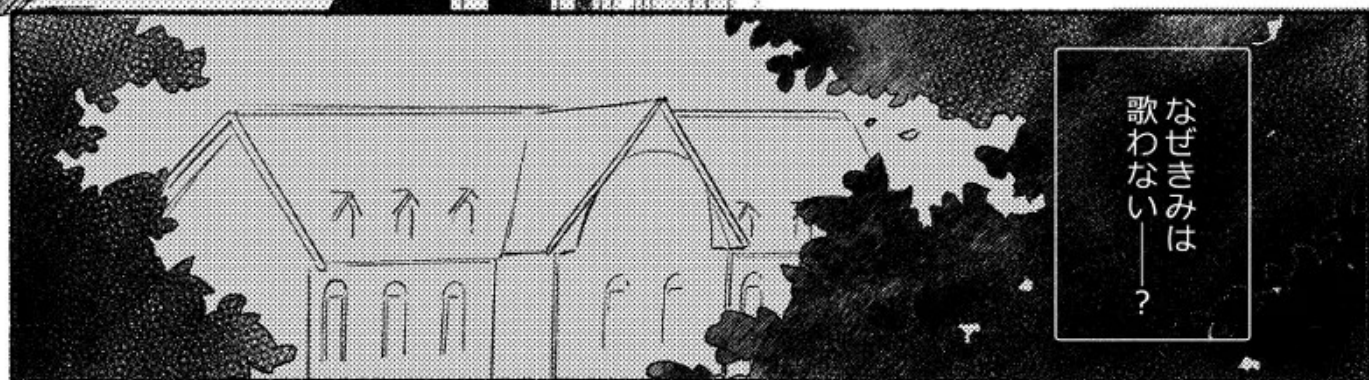








エリオ



なぜきみは  
歌わない？



そろそろ  
就寝だよ

部屋に  
戻ろう



熱心だね  
エリオ





ごめんね  
差し出がましい  
こと言ってる

さっきの  
ジョシユア  
のことが  
気になって

うん  
大丈夫だよ

彼エリオに  
練習来てほしい  
みたい  
だったから

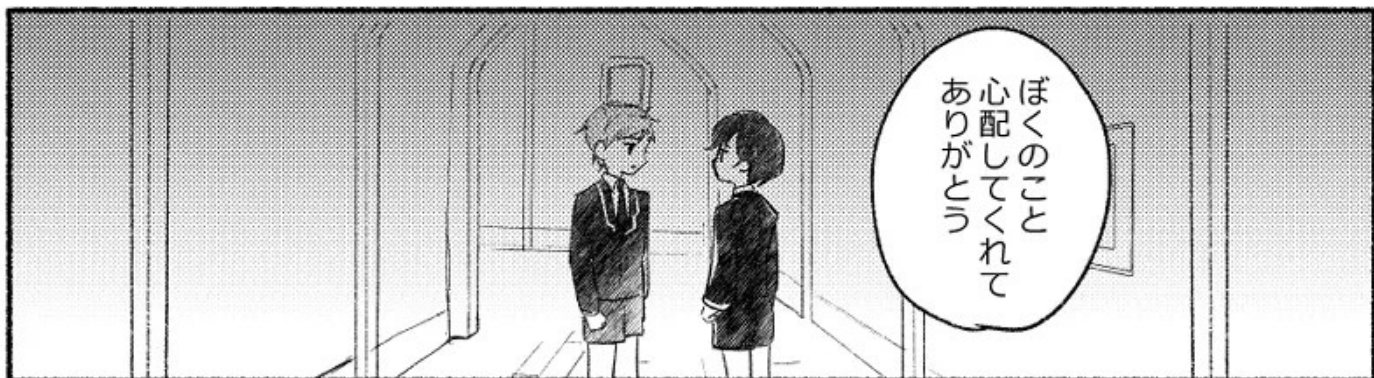
歌わなくて  
いいの？

エリオの  
歌には  
力があるよ

礼拝で  
きみの歌を聞いて  
ぼくは初めて  
祈りたいと思った

学校みんなが  
きみの歌を  
認めている

みんな  
きみの歌  
聞きたいんだ







考えてみれば  
ぼく  
エリオのことを  
何も知らないんだ

いつも  
隣にいるのに

それで  
ぼくのこと  
だっけ

何から  
話そうかな

うん

すごい簡単な  
ことなんだ

この学校の  
天使になって  
歌うことは

ずっと  
ぼくの目標  
だった

ぼくをこの学校に  
連れてきた  
ヴィクトルとの  
約束でもあった

でも  
そうしてぼくが  
目指してた未来は

今の  
ぼくにとって  
幸福じゃないんだ

この学校に来た時は  
ママを亡くして  
さみしかった

ママに会いたくて  
神の国を目指そうと  
思ってた

でも  
神の国は  
ぼくの人生の  
外側にある

昔ね  
神父がぼくらに  
教えて  
くれたんだ





ぼくらの  
背中には  
目に見えない  
天使の羽が  
ついていて

今にその羽が  
大きく育って  
この寄宿舎から  
飛び立っていく  
のだと――



でも  
ちがった



ぼくもいつか  
みんなと一緒に  
外へ飛び立つんだと  
思っていた



ぼくはずっと  
ここで歌うんだ  
卒業したら  
教会の修道院で

ヴィクトルや  
ほかの神父たちと  
一緒に

そしたら  
みんなと  
会うことも  
できない

以前は  
それでも  
いいと  
思ってた

でも今は  
ハッキリと  
それは嫌だ  
って  
思うんだ

ぼくはもつと  
色んな場所へ  
行きたいし  
卒業してから  
みんなと  
話したい

将来どうなるか  
わからないけど

だから  
今できることを  
頑張りたい

そう  
思えるように  
なったのはね

ノア

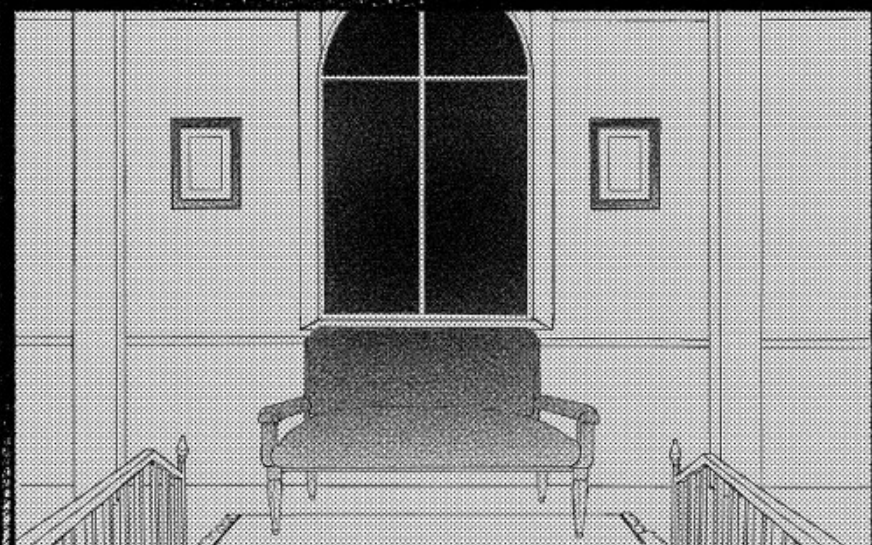
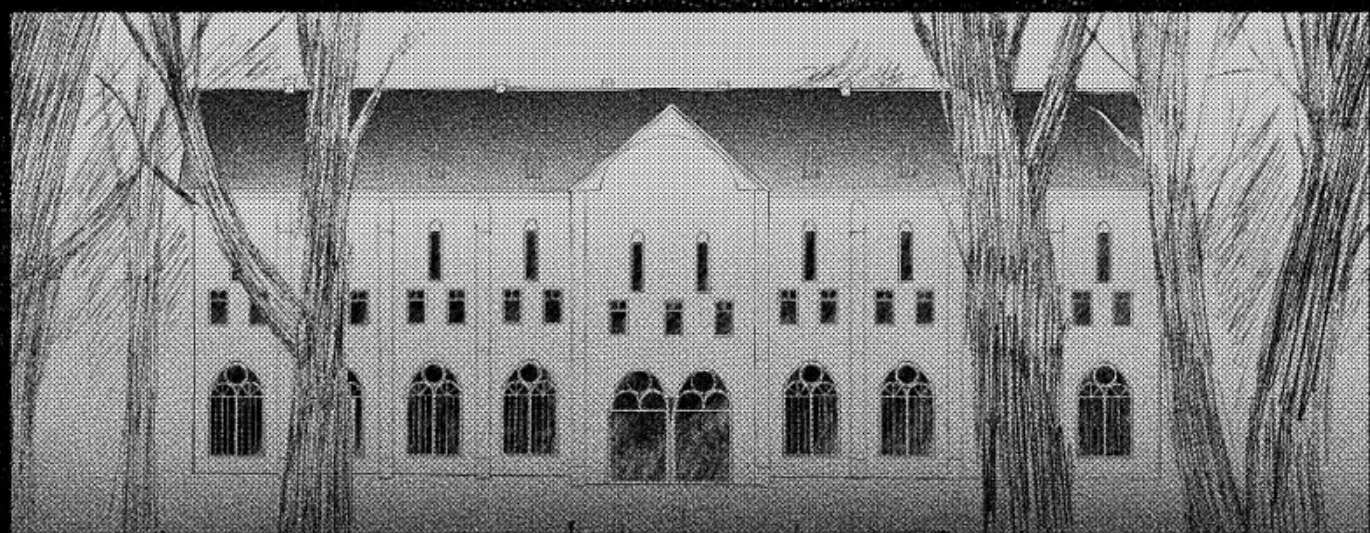
きみの  
おかげだよ

きみと  
これからも  
一緒に生きて  
いきたい

きみが  
ぼくに

楽園の在り処を  
教えて  
くれたんだよ







寄宿舎の  
西棟は  
神父たちの  
部屋

他の神父に  
見つからないと  
いいけど

ヴィクトル！

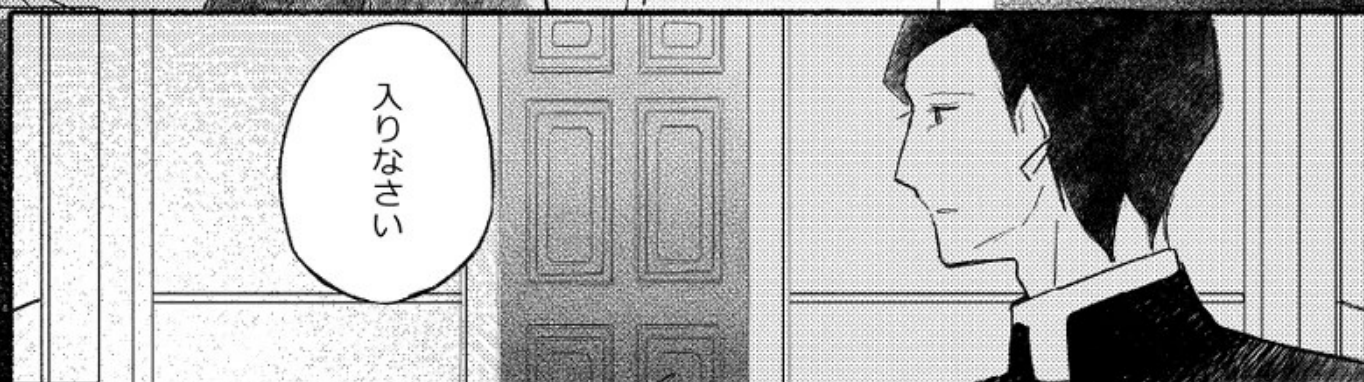
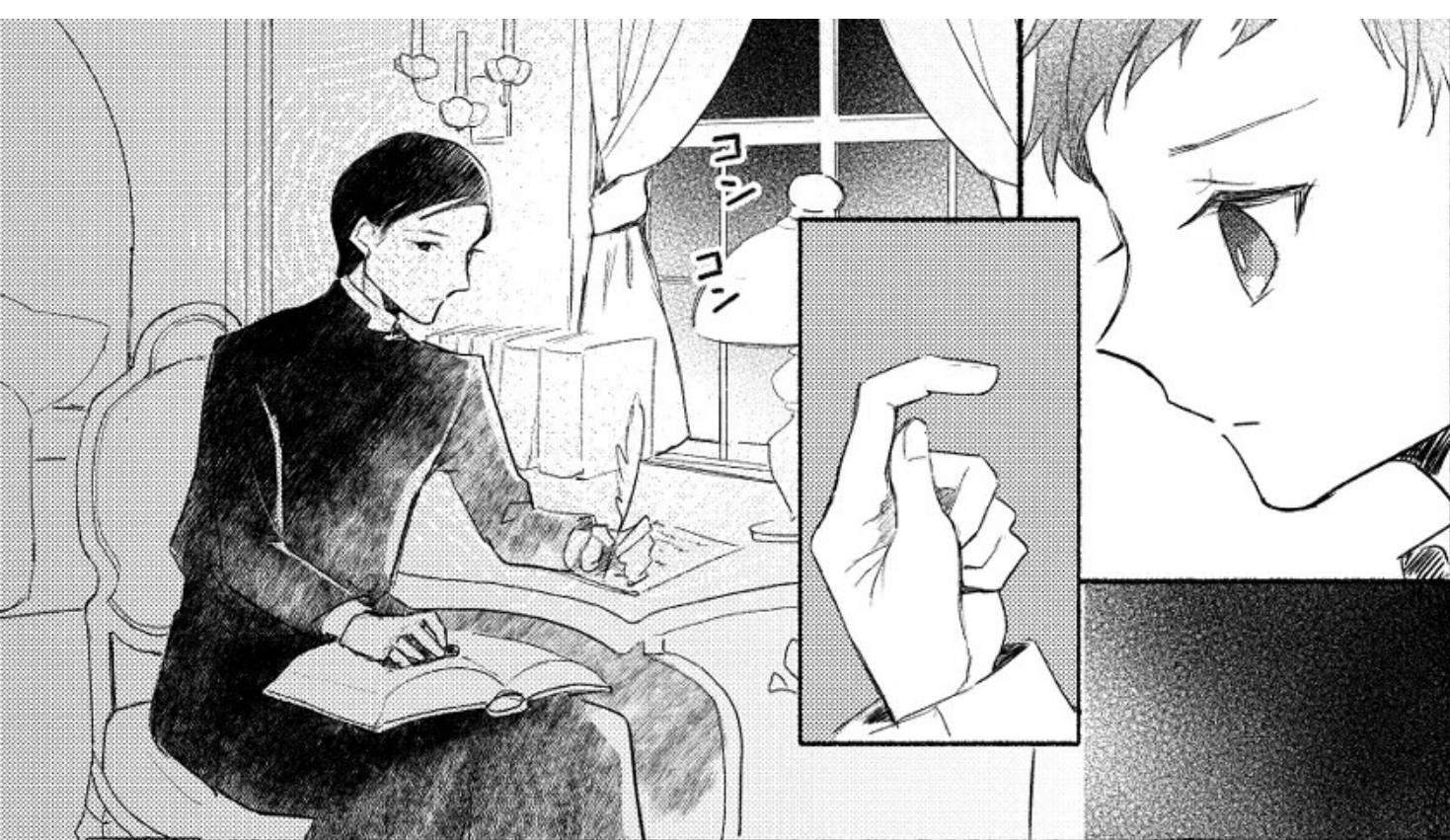
今日ね  
ぼく

ヴィクトル

あのねっ













今回は  
それだけを  
言いに来ました



待ちなさい





愛している  
エリオ



トクノ...



やめて  
ヴィクトル

トクノ...

トクノ...

トクノ...





ぼくは  
あなたと  
別れるつもりで  
来たんだ

あれ…？

あなたから

自由に  
なりたくて

おかしいな…



私に  
話して  
みなさい

今までの  
ように

寄宿舎の  
生徒たちは  
みんな天使の翼を  
持っている



ノアも  
ジョシユアも  
リヒターも

みんなその羽で  
ここから飛び立って  
いくんだ

ぼくにも  
その羽があつた  
はずなんだ

ぼくも  
頑張れば

みんなと同じに  
なれると  
思ったんだ



エリオ

きみは本当に  
よく頑張つて  
いるよ





ああ  
そっか

来なさい

エリオ

あ

ぼくは  
自分でその羽を  
失くして  
しまったんだ

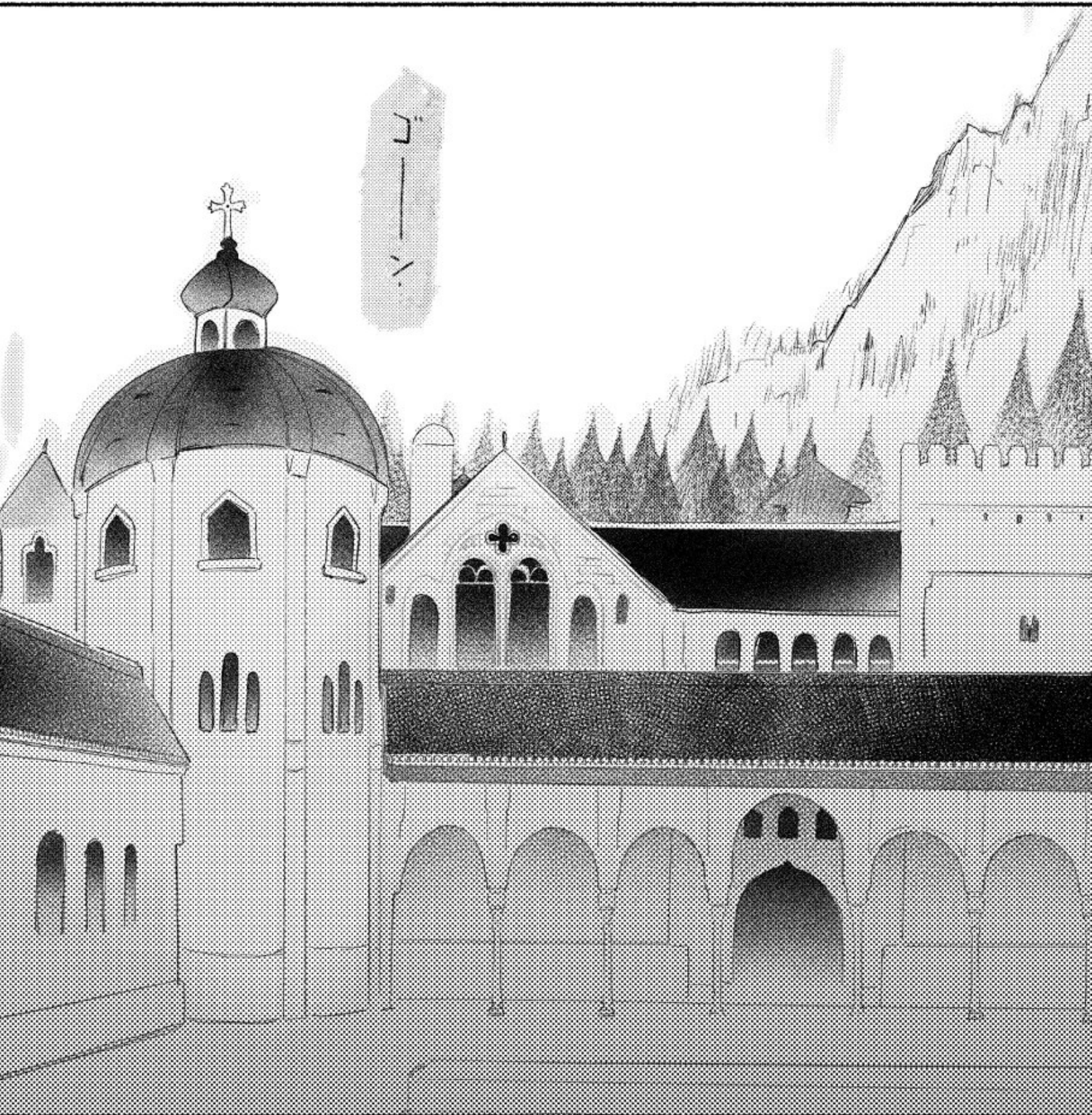




ゴーン

ゴーン

ゴーン











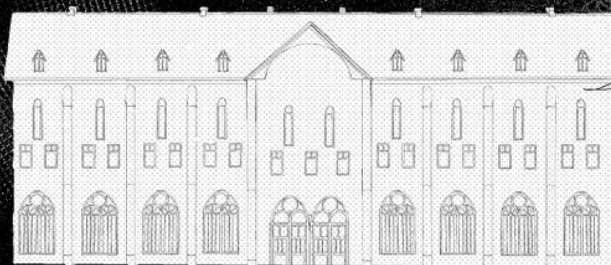
楽園への招待  
Episode of Elliot 2

R18  
ADULT ONLY





神学校に来たのは  
理由がある  
生きるための  
居場所が  
他になかったから  
じゃない  
おそらく  
ぼくは  
許されたいんだ  
ずっと  
自分自身を  
責めてきた  
ぼくのせいだと  
ママが死んだ  
あの日から



また  
眠れ  
ない  
の  
か  
い  
？











こうなつたのは  
ぼくのせいだ



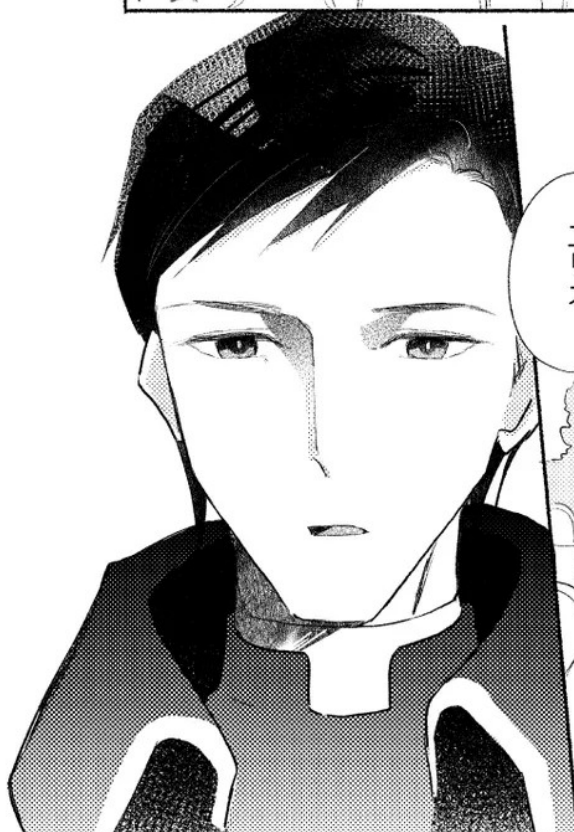
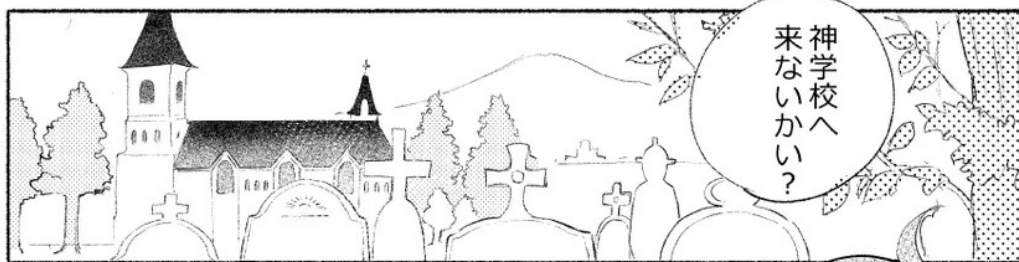
ぼくが  
ヴィクトルを  
求めていた

はじめて  
会った時から





楽園への招待  
Episode of Elliot 2

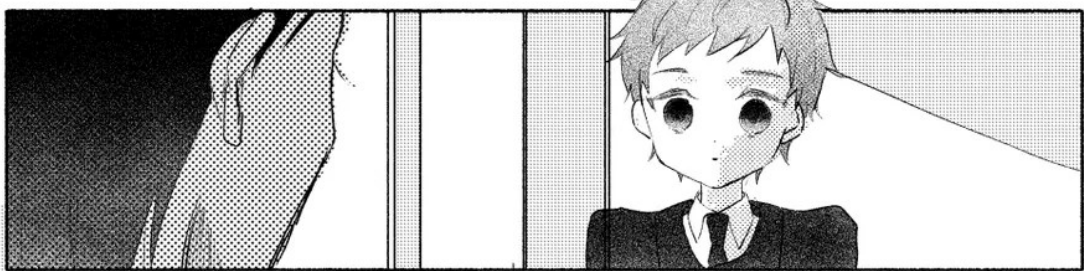


エリオ





神学校へ  
向かう  
汽車の中





あの瞳…

全てを  
見透かして  
いるような  
深い青の瞳…



ヴィクトルに  
見つめられると  
妙な気持ちになる



ふむ

彼の母親が  
亡くなったのは  
先月の  
クリスマスの日

隣町に  
買い物に行った  
母親が  
馬車に轢かれて死亡

気丈に  
振舞ってはいるが  
心の傷は  
癒えていないだろう







明日の  
昼には  
神学校に着く

今日は  
ここで  
休むように

それでは  
朝になったら  
起こすよ

おやすみ



ヴィクトル！  
あの人と  
一緒になつて  
全部変わった

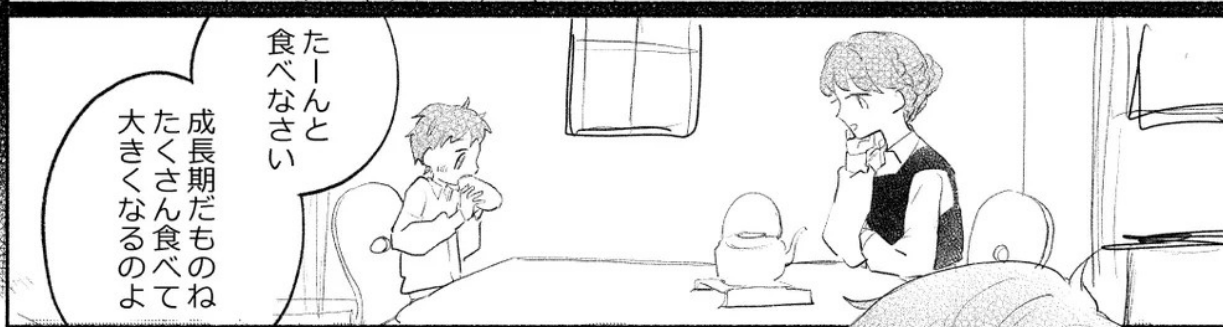
暖かい毛布  
神学校  
お腹いっぱい  
食べることに

今までとは  
違う  
何もかも



ママ!  
おなかすいた!



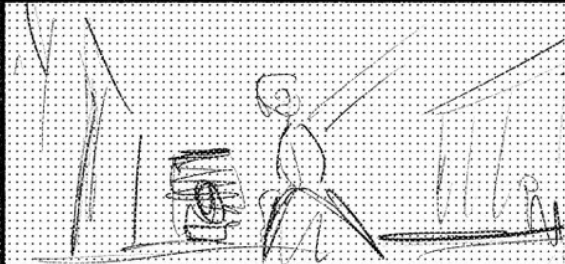






きっと  
ママの分まで  
ぼくが  
食べていたんだ

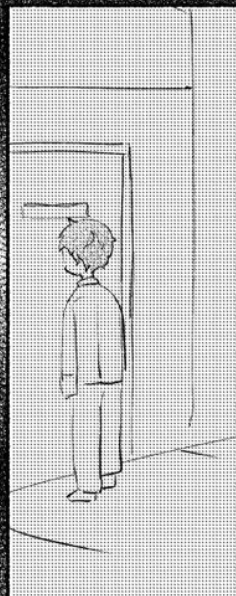
亡くなる前  
ママは  
栄養失調に  
なっていた



全部  
ぼくのせいだ  
ぼくが  
クリスマス  
プレゼントが  
ほしいと  
言っただから  
ぼくが  
わがママを  
言っただから  
ママは  
馬車に  
轢かれたんだ



ママが  
死んだのは  
ぼくのせいだ！





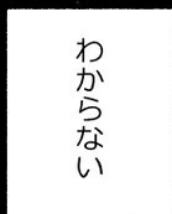
そもそも  
ヴィクトルと一緒に  
来たのが  
間違だった



帰って  
ママに  
謝らなく  
ちゃ



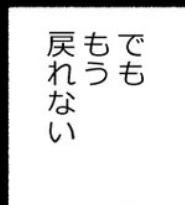
ぼくは  
神学校に  
行くべきじゃない



わからない



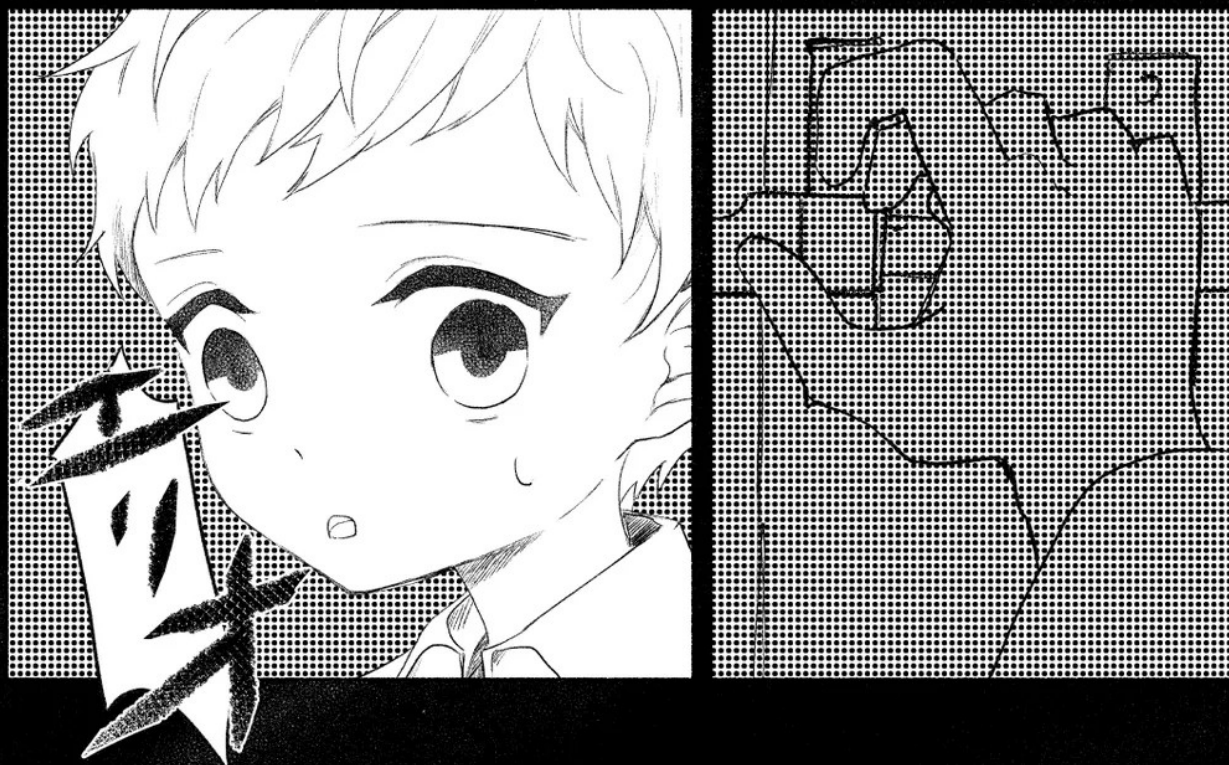
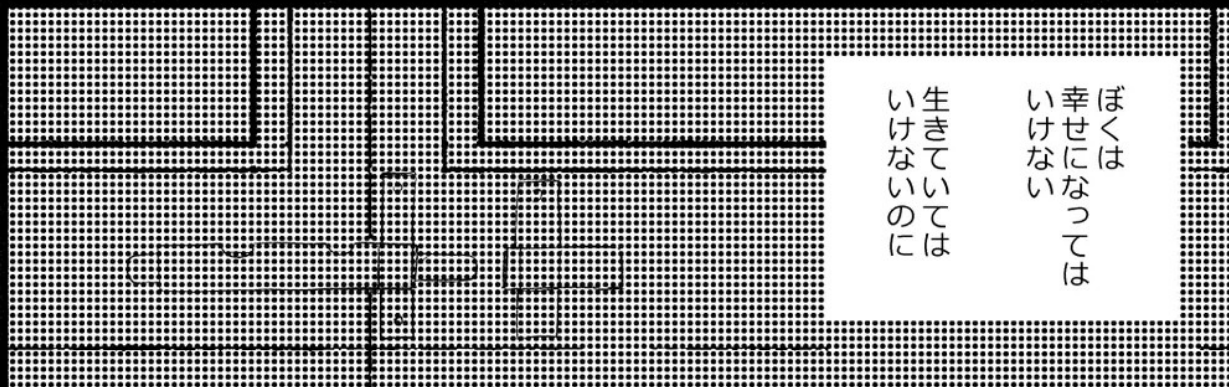
ここは  
どこだろう

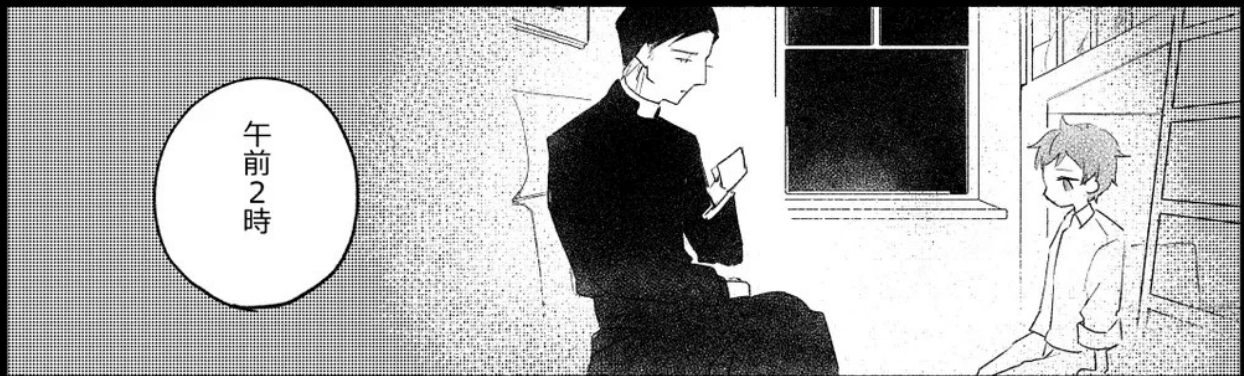


でも  
もう  
戻れない













かつて私も  
孤児だった  
きみと同じ



最愛の人？



だから  
きみの悲しみは  
よくわかるんだ

最愛の人を  
失った  
悲しみを



神学校の親友  
だった

なぜ  
その子は  
死んだの

それは  
私には  
わからない

だが  
残された者は  
考えてしまう  
のだ

死んだ者の  
ことを

なぜ死んだのか  
死んでなければ  
今頃はどうかだったか

どうすれば  
死なずに  
済んだのか



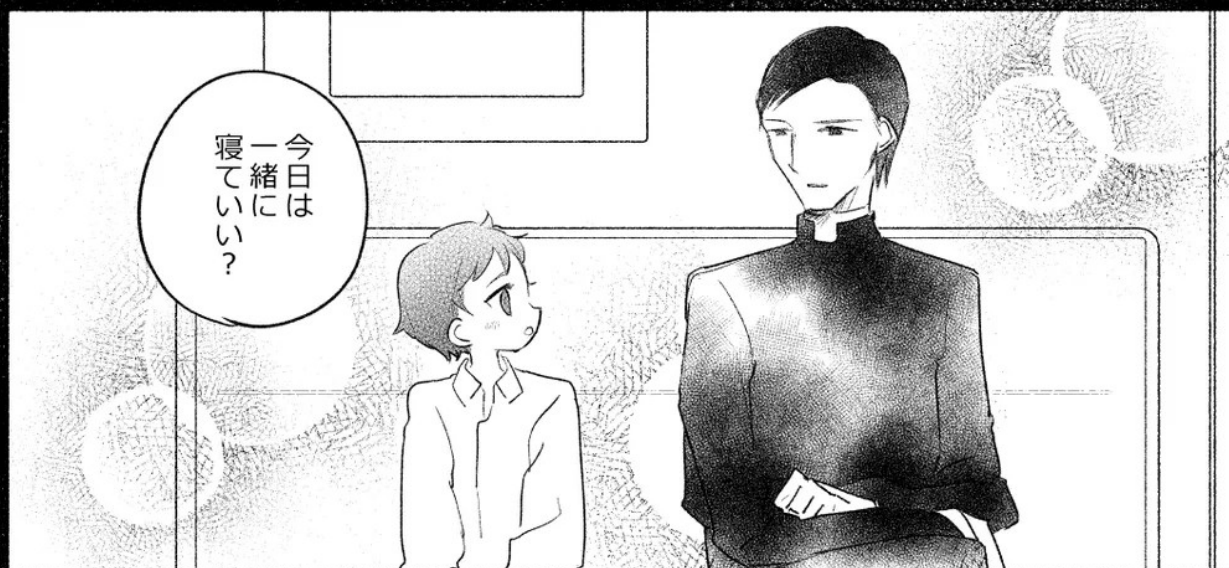
けれど  
考えても考えても  
答えは出ない



ヴィクトル

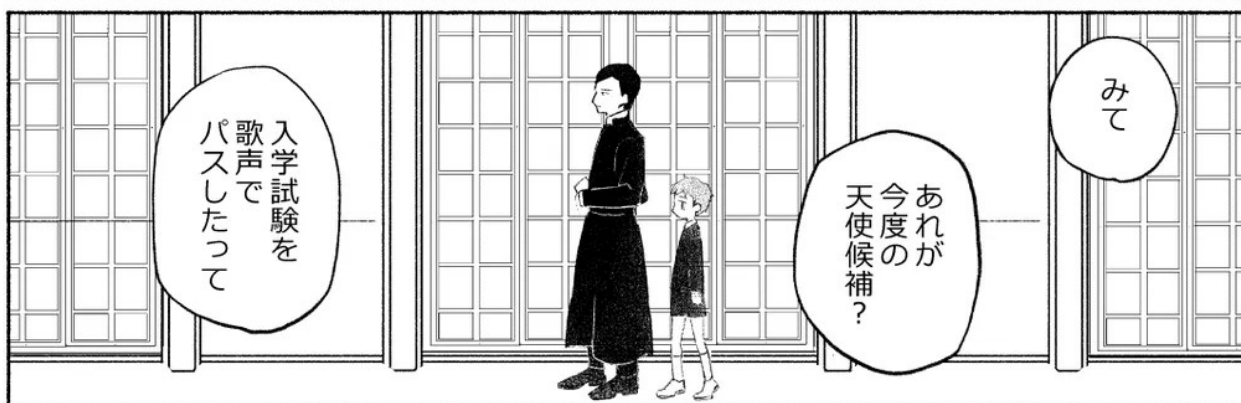
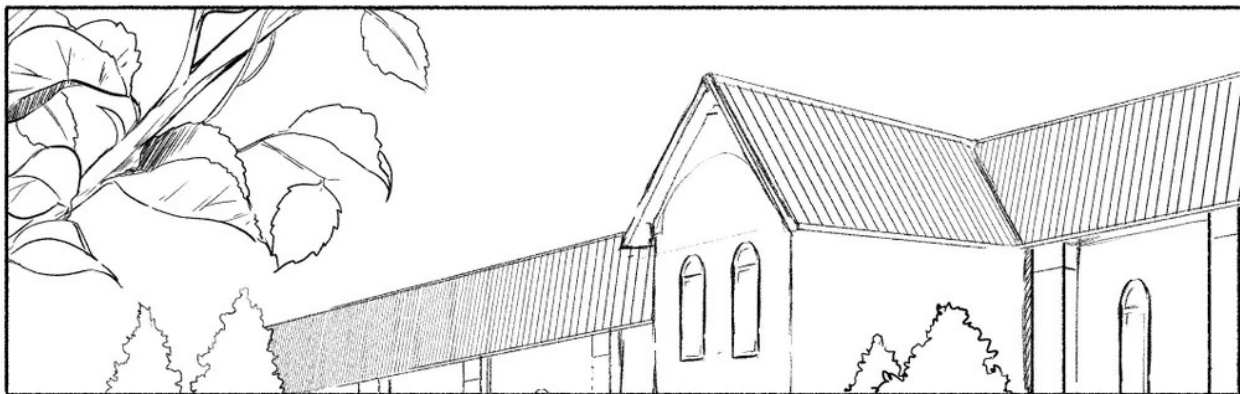


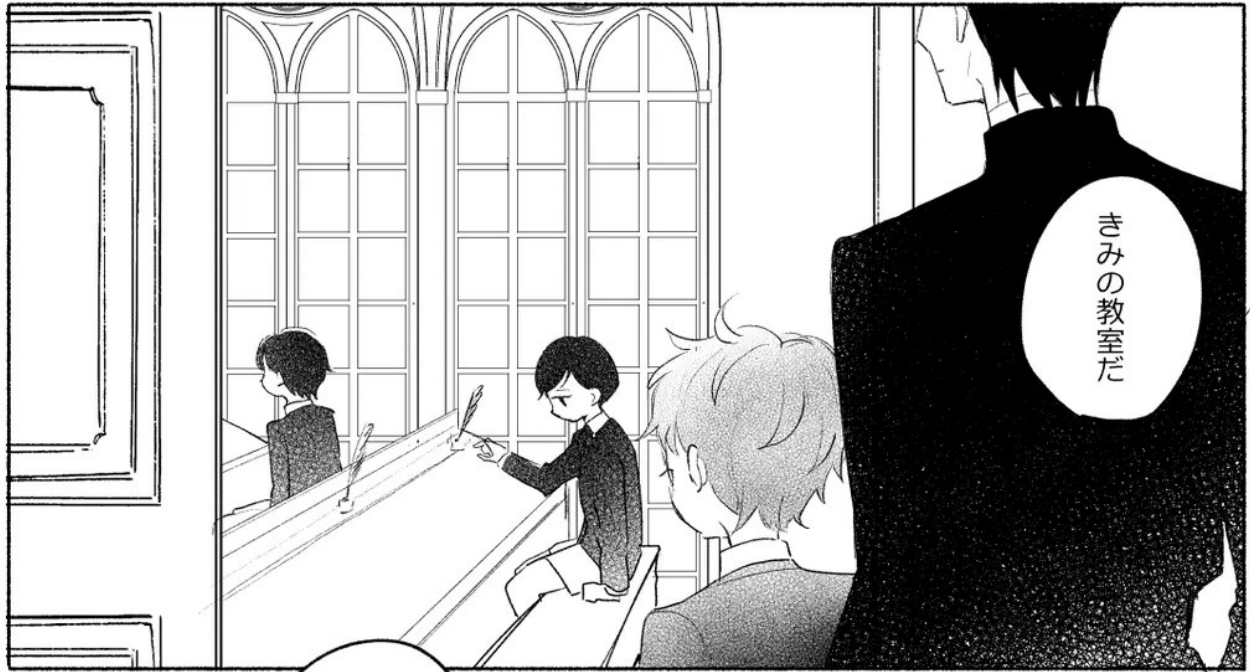












きみの教室だ



今日から  
この学校の  
仲間たち

きみの  
同級生だよ



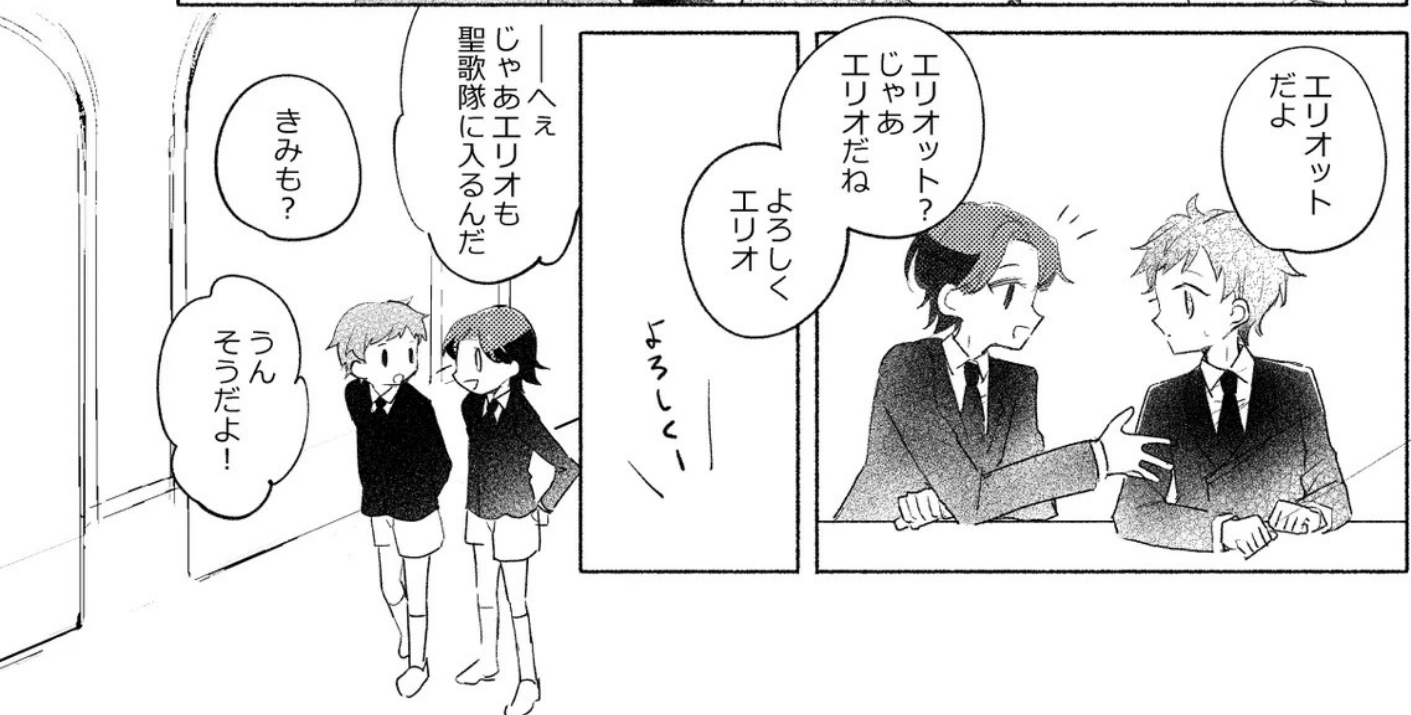
困ったことが  
あったら  
私の部屋に  
来なさい



あ…

さあ  
お入り



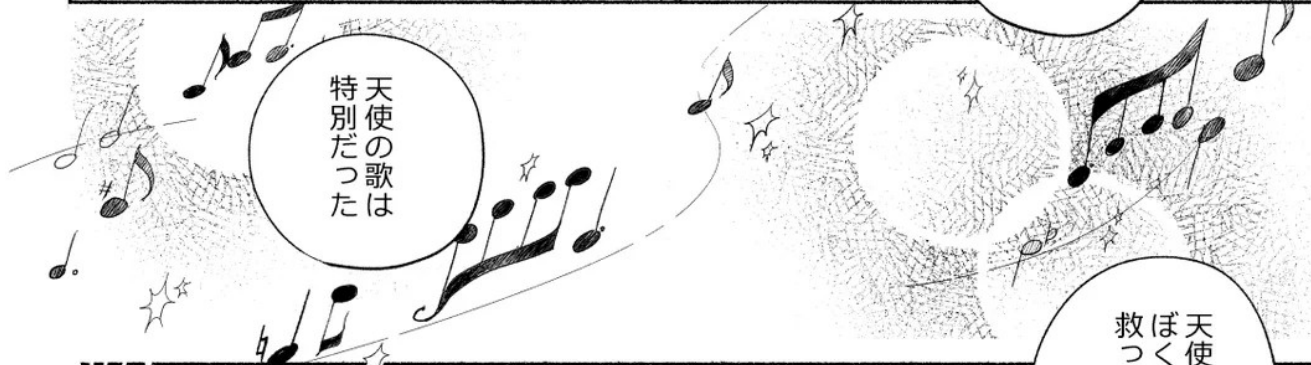








礼拝で  
いつも歌う  
天使を見ていた

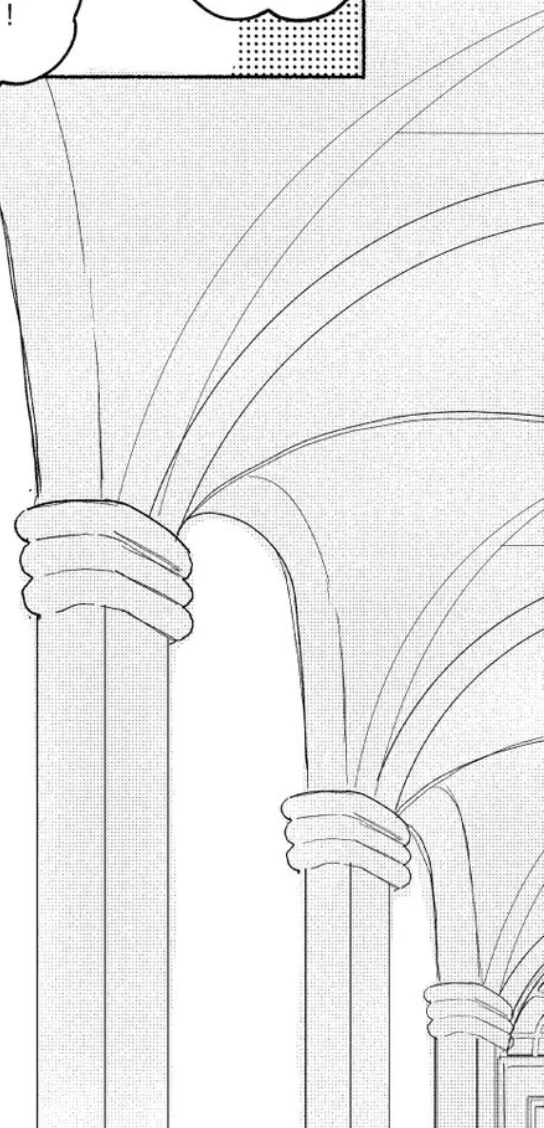


天使の歌は  
特別だった

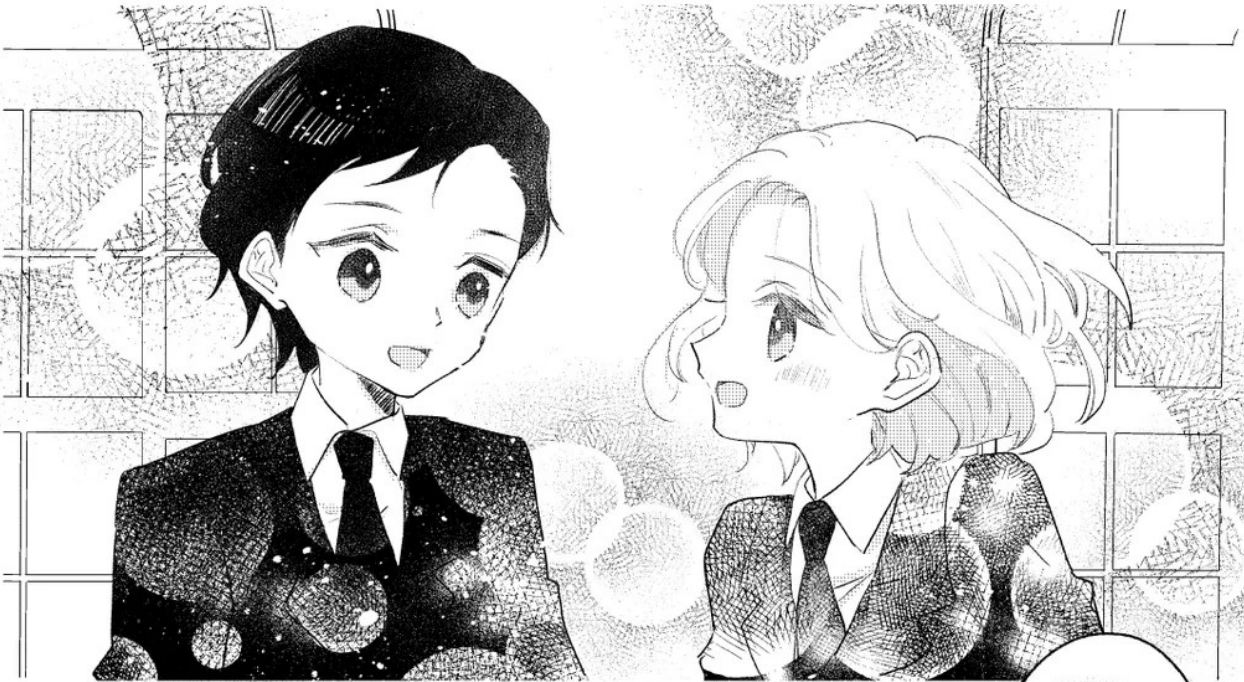
天使の歌が  
ぼくを導き  
救ってくれた



小さい頃から  
ぼくの憧れだ



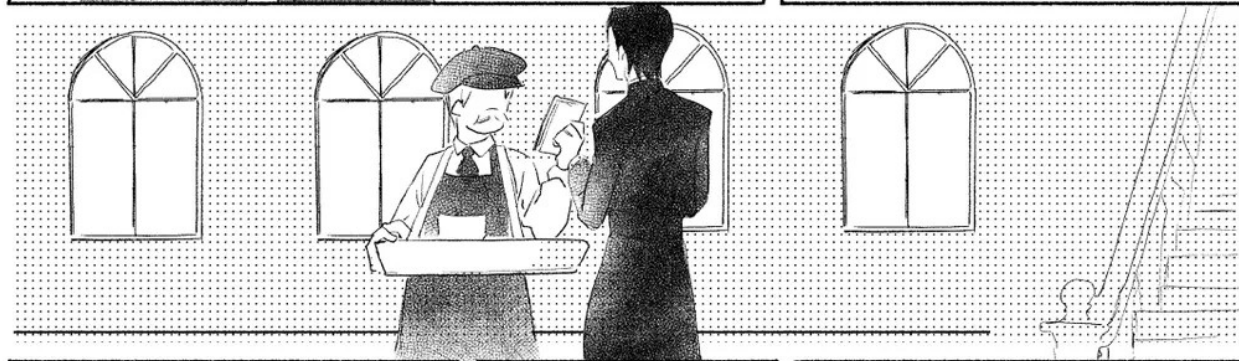




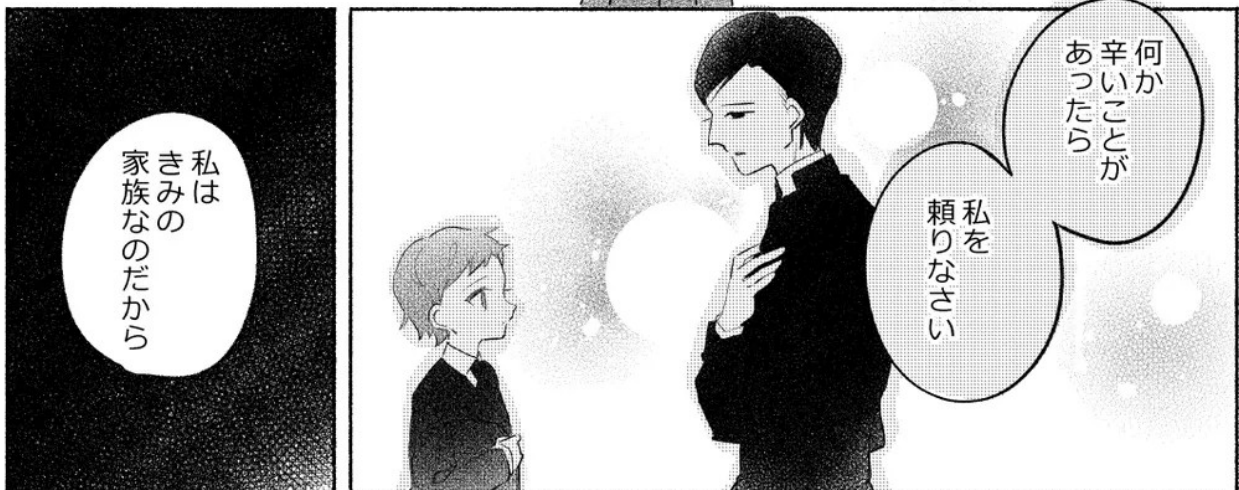
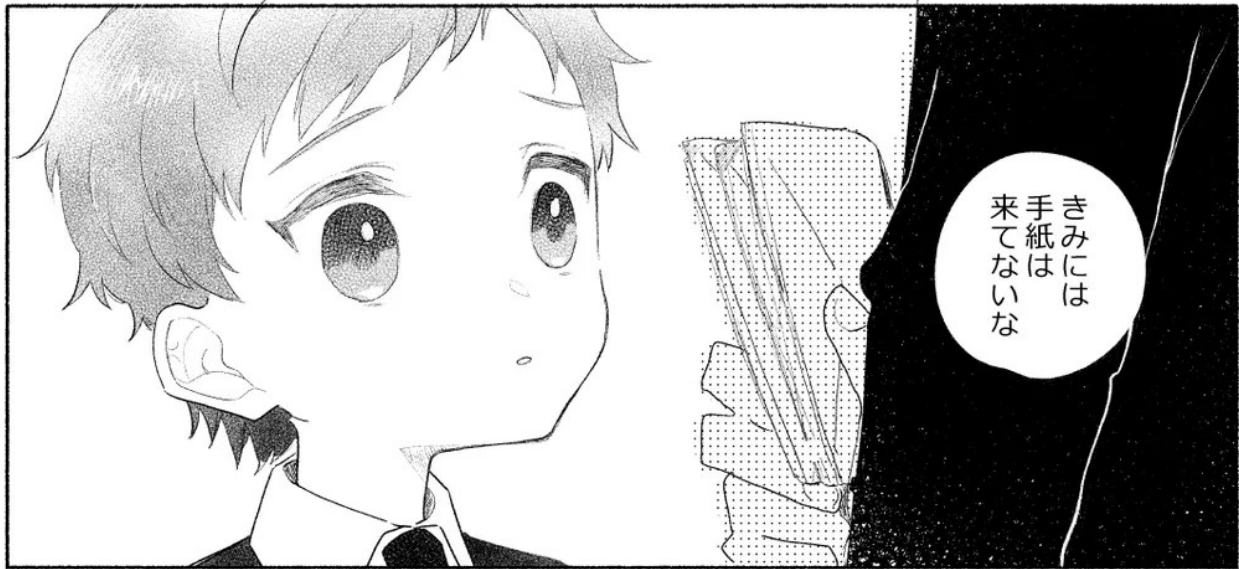


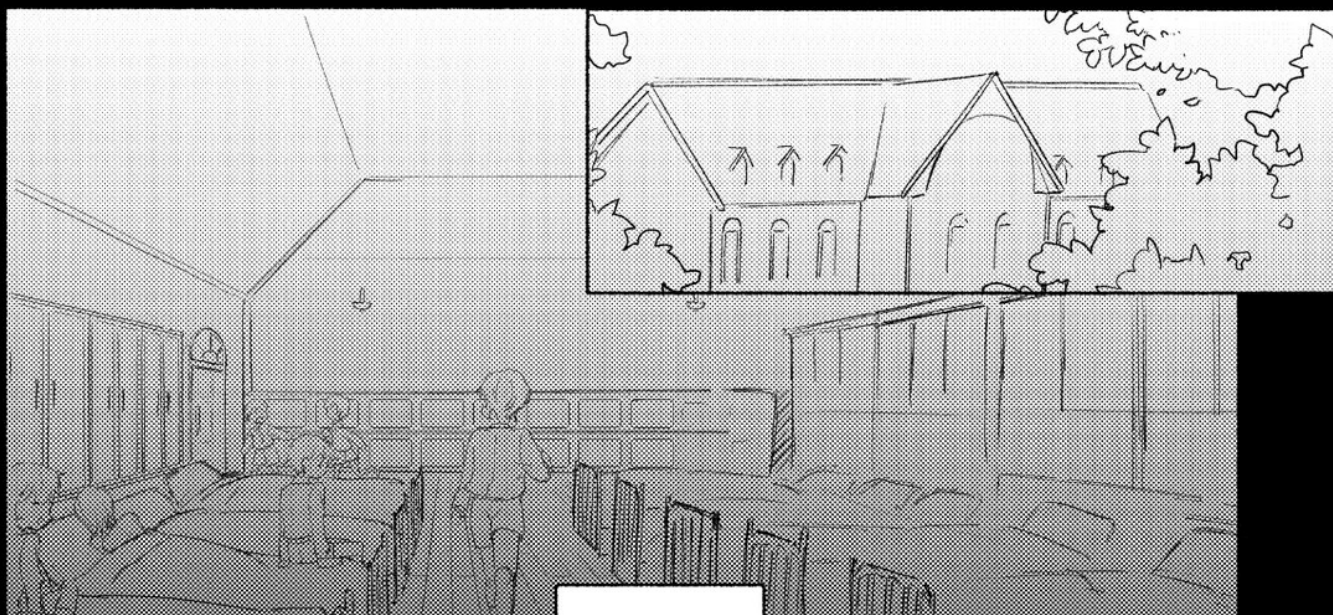












神学校に来て  
しばらくが  
経った



なぜ  
ぼくには手紙が  
こないのだろう



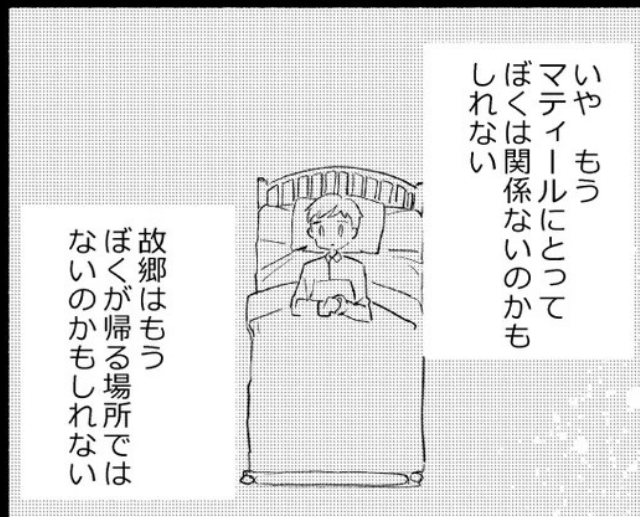
マティール神父  
小さい時から  
ずっと  
面倒をみてくれたのに

ほらほら  
エリオ  
寒いだろう！

風邪を引いた  
大変だ！  
私のコートを  
着なさい！







故郷はもう  
ぼくが帰る場所では  
ないのかもしれない

いや もう  
マティールにとって  
ぼくは関係ないのかも  
しれない



マティール  
ぼくの手紙を  
読んでくれたかな



ああ だめだ  
ここで泣けない  
みんなを  
起こしてしまう



ぼくは  
もう



入りなさい



どうしたんだい







きみの故郷の  
教会で  
私は見つけた



それは  
ちがうよ



きみの歌を



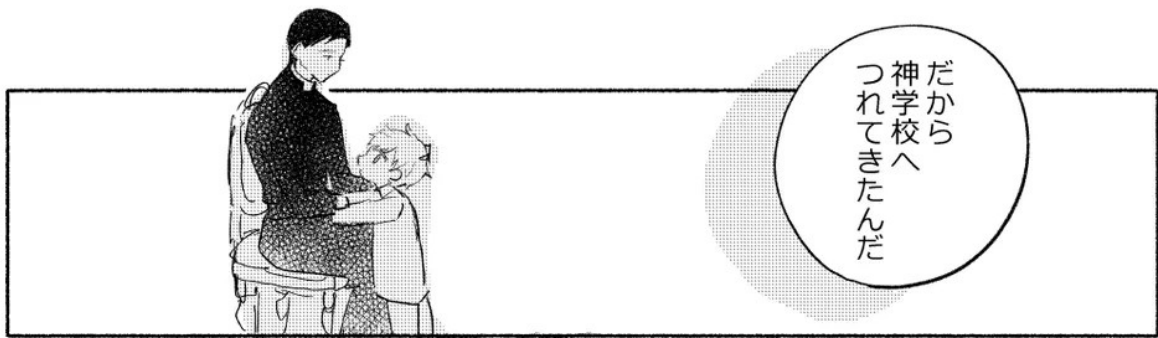


私は  
きみの歌に  
救われた

この声は  
クリス——!?

きみの歌こそ  
私の樂園だ





だから  
神学校へ  
つれてきたんだ



きみと



ともに  
過ごしたいと  
思ったから



私は  
きみが  
必要なんだ



ほんと？

そうだよ  
エリオ







楽園への招待  
Episode of Elliot 2

2024.3.10  
dot-hermann